漢文入門

【漢文の基本】

1 次の熟語の意味を例に倣って書き、構造を後の選択肢からそれぞれ選んで記号で答えなさい。

例 地震→地が震える

	意味	構造
(1) 日没		
(2) 握手		
(3) 就職		
(4) 青空		
(5) 激動		

ア 主語＋述語　イ 修飾語＋被修飾語
ウ 述語＋目的語　エ 述語＋補語

2 次の文を現代仮名遣いを用いて**全て**ひらがなで書き下し文に改めなさい。

(1) 鳥語、花香。（二七・6）

(2) 天朗、気清。（二七・7）

(3) 大器晩成。（二七・8）

3 次のように返り点を施された文は、どのような順序で読むか。空欄に番号を入れなさい。

(1) レ 。
(2) レ レ 。
(3) レ 二 一 。
(4) 二 一 。
(5) 三 二 一 。
(6) 二 レ レ 。
(7) 下 二 一 中 上 。
(8) 下 二 一 上 。

4 次の読む順序を示す数字に従って、それぞれ返り点を付けなさい。

(1) 2 1 4 3。
(2) 2 1 5 3 4。
(3) 3 1 2 6 4 5。
(4) 5 1 4 2 3。
(5) 6 1 4 2 3 5。
(6) 7 3 1 2 4 6 5。

5 次の文を書き下し文に改めなさい。

(1) 国破レテ山河在リ（一五二・3）

(2) 呉伐レ越ヲ。（一四〇・7）

(3) 行クコト百里ナルモ不レ去ラ。（一三〇・3）

(4) 挙ゲテ二伍員ヲ一謀ラシム二国事ヲ一。（一四〇・3〜4）

(5) 立テ二祠ヲ一江上ニ、命ケテ曰フ二胥山ト一。（一四二・7）

(6) 無カレルコト為レ二牛後ト一。（一三七・2〜3）

(7) 悪ムニ下スルヲ称スル二人之悪ヲ一者ヲ上。（一一九・7）

6 次の書き下し文に従って、それぞれ返り点を付けなさい。

(1) 禍を転じて福と為す。（一一八・8）

転ジテ禍ヲ為ス福ト。

(2) 人学ばざれば、道を知らず。（一一八・10）

人不レバ学バ、不知ラ道ヲ。

(3) 羊頭を懸けて、狗肉を売る。（一一八・11）

懸ケテ羊頭ヲ、売ル狗肉ヲ。

(4) 百聞は一見に如かず。（一一九・1）

百聞ハ不如カ一見ニ。

(5) 吾日に吾が身を三省す。（一一九・2）

吾日ニ三レ省ス吾ガ身ヲ。

(6) 君子は其の言の其の行ひに過ぐるを恥づ。（一一九・3）

君子ハ恥ヅ其ノ言之過グルヲ其ノ行ヒニ。

(7) 児孫の為に美田を買はず。（一一九・8）

不為ニ児孫ノ買ハ美田ヲ。

【置き字】

1 次の文の「而」の意味・用法として適当なものを、後ろの語群からそれぞれ選んで記号で答えなさい。

(1) 公置レ怨而用レ之。（一三八・7〜8）

(2) 視而不レ見。（一二〇・9）

(3) 衆狙皆伏而喜。（一二八・7）

(4) 千里馬常有、而伯楽不二常有一。（一五八・1〜2）

ア 順接　イ 逆接

2 次の文の「於」の意味・用法として適当なものを、後ろの語群からそれぞれ選んで記号で答えなさい。

(1) 斉人召二小白一於莒。（一三八・5）

(2) 良薬苦二於口一。（一二〇・5）

(3) 天下莫レ柔二弱於水一。（一二一）

(4) 季康子問二政於孔子一。（一六八・7）

(5) 辱レ於二奴隷人之手一。（一五八・2〜3）

ア 場所・時間　イ 目的・対象　ウ 起点
エ 比較　オ 受身

3 次の文で用いられている置き字を、それぞれ**全て**抜き出しなさい。

(1) 学而不レ思則罔。（一六六・5）

(2) 俄而匿焉。（一二八・3〜4）

(3) 馬今至矣。（一三五・1）

(4) 夫差敗二越于夫椒一。（一四〇・10）

(5) 懸二胆於坐*臥一。（一四一・4）　*坐臥＝自分の部屋。

(6) 吾十有五而志二于学一。（一六九・5）

(7) 吾党之直者、異二於是一。（一七〇・5）

(8) 直在二其中一矣。（一七〇・6）

4 次の文の傍線部を置き字に注意して、それぞれ現代語訳しなさい。

(1) 不レ信二乎朋友一。（一二〇・7）

(2) 三人行、必有二我師一焉。（一二〇・10）

【再読文字】

1 次の書き下し文に従って、それぞれ返り点と送り仮名を付けなさい。

(1) 未だ成らず。（一二六・5）

未　成。

(2) 将に其の食を限らんとす。（一二八・4）

将　限　其　食。

(3) 酒を引きて且に飲まんとす。（一二六・4）

引　酒　且　飲。

(4) 宜しく速やかに去るべし。

宜　速　去。

(5) 盍ぞ各 爾が志を言はざる。

盍　各　言　爾　志。

2 次の文をそれぞれ書き下し文に改めなさい。

(1) 未知生、焉知死。（一二三・5）

(2) 及時当勉励。（一二二・7）

(3) 惟仁者宜在高位。（一二三・9）

(4) 人生得意須尽歓。（一二三・10）

3 次の文の書き下し文として適当なものを、次の中からそれぞれ一つ選んで記号で答えなさい。

(1) 応知故郷事。（一二三・6）

ア　応じて故郷の事を知る。
イ　応じて故郷の事は知るべし。
ウ　応に故郷の事を知るべし。
エ　故郷の事を応に知るがごとし。

(2) 過猶不及。（一二三・8）

ア　過ぎること及ばざるがごとし。
イ　過ぎたるは猶ほ及ばず。
ウ　猶ほ過ぎること及ばず。
エ　過ぎたるは猶ほ及ばざるがごとし。

【まとめ】

1 次の四字熟語の読みを答えなさい。また、意味として適当なものを、後ろの語群からそれぞれ**一つ**選んで記号で答えなさい。

	読み	意味
(1) 危機一髪		
(2) 四面楚歌		
(3) 切磋琢磨		
(4) 朝令暮改		
(5) 同工異曲		
(6) 猪突猛進		
(7) 自画自賛		
(8) 博覧強記		

ア 自分で行ったことを褒めたたえること。
イ 非常に危険な状態にあること。
ウ 志を同じくする者が互いに励まし合って向上すること。
エ 向こう見ずにがむしゃらに進むこと。
オ 敵に囲まれて孤立状態になること。
カ 見かけは違っているように見えても、中身は同じであること。
キ 朝出した命令・法律を、夕方には改めたり変えたりすること。
ク 広く書物を読み、よく記憶していること。

2 次の熟語の(a)漢文における意味と、(b)現代日本語における意味をそれぞれ調べなさい。

(1) 左右
(a)
(b)

(2) 迷惑
(a)
(b)

3 次の空欄に後ろの語群から適語を入れなさい。

書き下し文のまとめ

漢文を日本語の語順に改めて、漢字仮名交じりで書いたものを「 A 」という。次の原則に留意しよう。

① B は平仮名（歴史的仮名遣い）にする。
② 日本語の C に当たる漢字は平仮名にする。
③ 訓読のときに読まない文字（ D ）は書かない。
④ 再読文字は、最初の読みは E を用い、二度目の読みは F にする。

助詞・助動詞　送り仮名　平仮名
漢字　書き下し文　置き字